

対象番組：NEWS23(TBS)

対象期間：9/3～9/7

## ・ 9/3(月)

自民党総裁選、経団連と採用活動、文科省が置き勉容認などについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の見地から検証を行いました。特に問題は見られませんでした。なお、自民党総裁選の報道については検証者の所感を記しました。また、自民党総裁選については一日の報道での判断ではなく、総裁選期間を通じての総合的な判断が必要であると考えています。

## ・ 9/4(火)

経団連と就職活動、医学部合格率と男女差、国民民主党代表選挙、野田聖子総務相が安倍首相支持を表明などについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の検知から検証を行った所、国民民主党代表選挙については問題が見られました。また、国民民主党代表選挙については印象操作の疑われる場面もありました。加えて、経団連と就職活動、国民民主党代表選挙の報道については検証者の所感を記しました。なお、野田聖子総務相が安倍首相支持を表明という報道については、これも自民党総裁選についての報道と併せて、総裁選期間を通じての総合的な判断が必要であると考えています。

## ・ 9/5(水)

韓国特使団が訪朝、日朝学生交流、トランプ政権の新内幕本などについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の検知から検証を行った所、特に問題は見られませんでした。なお、日朝学生交流についての報道は検証者の所感を記しました。

## ・ 9/6(木)

北海道地震が総裁選にも影響、金党委員長が非核化の具体的期限に言及、秋篠宮家の長男悠仁さまが皇居御所を訪問などについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の検知から検証を行った所、いずれのトピックについても問題は見られませんでした。

## ・ 9/7(金)

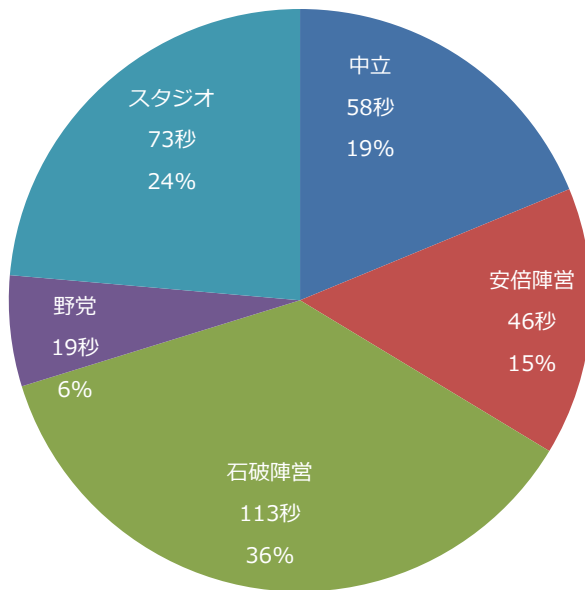
北朝鮮建国 70 年、自民党総裁選などのトピックが報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の検知から検証を行った所、いずれのトピックについても特に問題は見られませんでした。また、自民党総裁選の報道については検証者の所感を記しました。なお、自民党総裁選の報道については、総裁選期間を通じての総合的な判断が必要であると考えています。

※検証の詳細は次ページ以降の「詳細版」に掲載されている各放送日の報告書をご覧ください

放送法遵守を求める視聴者の会

# NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年9月3日
<p>出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙 森田正光（気象予報士）</p>		
<p>検証テーマ：自民党総裁選、経団連と採用活動、文科省が置き勉容認</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・”最強”台風あす上陸へ</li> <li>    VTR 後にはスタジオで森田正光気象予報士が解説</li> <li>・体操協会パワハラ疑惑</li> <li>・自民党総裁選</li> <li>・「ケフィア」破産手続き開始</li> <li>・経団連と採用活動</li> <li>・大阪富田林警察署の逃走容疑者が知人自転車にメモ</li> <li>・スポーツ報道</li> <li>・23Today</li> <li>    台風 21 号</li> <li>    体操界のパワハラ疑惑</li> <li>    ブラジルの博物館で火事 2000 万点以上が焼けたとみられる</li> <li>    文科省が置き勉容認</li> <li>    今夏やはり記録的暑さ、平均気温は東日本では歴代一位、西日本は歴代二位</li> <li>・天気予報</li> </ul>		
<p>放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自民党総裁選：結論→他の放送日との併せての評価が必要</li> <li>    自民党総裁選について報じられた。</li> <li>    報道では大きく分けて、中立的な説明の部分、安倍陣営の動きにスポットを当てた部分、石破陣営の動きにスポットを当てた部分、野党の反応にスポットを当てた部分、スタジオでのやりとりの 5 つに大別され、このトピックについて当てられた時間は 309 秒で、それぞれの場面への時間配分及び比率は以下の通りであった。</li> </ul>		



中立的な説明の部分では、この土日に行われた安倍総理と石破元幹事長とどちらが総裁にふさわしいかということについてのJNN世論調査について、安倍総理と答えた人は41%で石破氏は40%拮抗する結果となったこと、ただ、自民党を支持する人に限ると安倍総理は72%になり、石破氏の21%を大きく上回っている一方で支持政党がない人に限ると石破氏は46%で安倍総理の29%を上回っている、ということが伝えられた。

安倍陣営の動きについては、選対本部発足式の様子と安倍総裁の「担ぎ手は素晴らしいけれど神輿がボロいと言われぬように私も頑張っていかなければいけない。」「私の不徳の致すところから様々な批判がありそれを皆さんがかぶっていただいた。大変だったと思います。でも自由民主党はそういう時こそ一致結束する、これが我が党の強さであります。」という発言のシーンが取り上げられていた。また、麻生副総理をはじめとした各派の領袖が参加していたことから「錚々たる顔ぶれが揃いました」とナレーションで評されていた。さらに、自衛隊幹部を前に自衛隊幹部を前に安倍総理が「すべての自衛隊員が強い誇りを持って任務を全うできる環境を整える。これは今を生きる政治家の責任であります。私はその責任をしっかりと果たしていく決意です。」と述べている場面が取り上げられていた。

石破陣営の動きについては、「対する石破元幹事長が期待するのは地方でくすぶる反安倍票です。」とナレーションで説明され、地方での有権者との以下に朱記したやり取りが取り上げられていた。

市民「なんで平等であるとか公平であることに文句がつくんですか。」

石破氏「不思議ですねえ。」

市民「それを聞きたいんですけども。」

石破氏「私が言ってるわけじゃないから。」

また、JNNの世論調査を踏まえての記者との以下に朱記したやり取りが取り上げられていた。

記者「勝負はついたというような声もあるようですが。」

石破氏「それは自民党が国民から遊離しちゃいけないということじゃないですか、私は、我々は国民を見ていき

たい、というふうに思っております。」

野党の反応としては共産党の小池晃書記局長の「ちょっとね、安倍首相のこの改憲に向けた主張はあまりに前のめりではないでしょうか、ちょっとクールダウンをすべきではないでしょうか。頭を冷やしたほうがいいんじゃないだろうかというふうに言わざるを得ません。」というコメントが取り上げられていた。

スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返されてきた。

雨宮塔子「世論調査では安倍政権の経済政策アベノミクスについて景気回復の実感があるかと聞いたところ、実感があると答えた人が 11%、対して実感はないと答えた人が 84%に登っているんですね。」

星浩「そうですね、実感がないっていうのは高いですね、まああのおそらく憲法とかですね政治姿勢に並んでアベノミクスの評価というのは今度の総裁選挙の焦点なんですけど、例えばですねこの六年近く続いてきた金融緩和によって円安が進みましたよね。それによって輸出産業が相当潤ったんですけども、一方で地方では一家に 2 台 3 台と車を持ってますのでねガソリン代が高くなっていますから、地方からすると不満がくすぶっているですね。で石破さんがその地方に焦点を絞っているのもそのへんに狙いがあるんで、そういう意味でそのアベノミクスのプラスマイナス、これしっかりとその議論してもらいたいと思いますね。」

今日の報道では石破氏に焦点を当てたシーンのほうが多かったが、このテーマについては他の放送日と併せて公平性について評価する必要があるものだと考える。

・経団連と採用活動：結論→特に問題なし

経団連の中西会長が個人の考えとして上での「経団連がこういう、こう採用の日程に関して采配するっていう事自体に極めて違和感がある、と。」と発言するシーンが取り上げられたほか、現在の経団連の採用指針では企業に対し 6 月から面接などの選考を解禁しているが、中西会長は今の就職のあり方、一括採用のあり方などについて多くの経営者が問題意識を共有している、と述べたことが報じられた。

このトピックについて当てられた時間は 55 秒で、放送法上の問題は見られなかった。

・文科省が置き勉容認：結論→特に問題なし

文部科学省は教科書などを学校に置いて帰るいわゆる置き勉を認めるよう全国の教育委員会などに求める方針を決めたこと、これまで一部の小中学校では原則として教科書などを自宅に持ち帰るよう指導していたがこれに対してランドセルなどが重すぎるという保護者からの意見が寄せられていたとのことが伝えられた。このトピックについて当てられた時間は 25 秒で放送法上の問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・自民党総裁選

安倍氏の一次政権ではこれまでは規定されていなかった憲法改正のための手続を定めることに国民投票法を制定したことなどからも推察は可能であるが、憲法改正が安倍氏の悲願・ライフワークであることは有名な話で

あると思っていたが、それだけに共産党の小池書記局長のちょっとね、安倍首相のこの改憲に向けた主張はあまりに前のめりではないでしょうか、ちょっとクールダウンをすべきではないでしょうか。頭を冷やしたほうがいいんじゃないだろうかというふうに言わざるを得ません。」という発言には率直に驚いた。安倍氏の支持者からすれば「前のめり」どころか「ようやくか」といった感すらあるのではなかろうか。

また、スタジオでの星キャスターのコメントも「実感の伴う経済成長」を実現することの困難さをあぶり出すという点では秀逸なコメントであった。星キャスターも述べているように「この六年近く続いてきた金融緩和によって円安が進みましたよね。それによって輸出産業が相当潤った」わけで、それでも雨宮氏の述べるように「世論調査では安倍政権の経済政策アベノミクスについて景気回復の実感があるかと聞いたところ、実感があると答えた人が 11%、対して実感はないと答えた人が 84%に登っている」のだから、潤っているはずの輸出産業およびその関連産業に従事している人の間でも、「実感はない」と感じている人が少なくないということが、読み取れるだろう。

星キャスターのコメントについては「この六年近く続いてきた金融緩和によって円安が進みましたよね。それによって輸出産業が相当潤ったんですけれども、一方で地方では一家に 2 台 3 台と車を持っていますのでねガソリン代が高くなっていますから、地方からすると不満がくすぶっている」とも述べていたが、円安によって潤っている輸出産業の拠点の多くはまさに地方にあるわけで、アベノミクスで潤っている輸出産業と円安によるガソリン代高騰に不満な地方という構図はあまりにも粗雑過ぎはしないだろうか。

# NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年9月4日
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙		
<p>検証テーマ：経団連と就職活動、医学部合格率と男女差、国民民主党代表選挙 野田聖子総務相が安倍首相支持を表明</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台風 21 号が列島直撃し各地に爪痕</li> <li>・経団連と就職活動</li> <li>・医学部合格率の男女差</li> <li>・国民民主党代表選挙</li> <li>・スルガ銀行創業家側に数百億円融資</li> <li>・スポーツ報道</li> <li>・23Today</li> <li>  台風 21 号列島縦断</li> <li>  経団連と就活</li> <li>  野田聖子総務相が安倍首相支持を表明</li> <li>  横浜でマンション補修工事のための足場崩れる</li> <li>  風疹患者が去年の 3 倍近く</li> <li>・天気予報</li> </ul>		
<p>放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経団連と就職活動：結論→特に問題なし</li> </ul> <p>現在のルールでは企業は 3 月になってようやく学生を相手に会社説明会を始めていいことになっていて、更に面接を行ってよいとされているのが 6 月以降、内定を出していいのが 10 月以降とそれぞれ細かく期日が決められていること、こうしたルールは学生が学業に専念するために設けているとのこと、経団連の中西会長の発言をうけて今後こうした縛りが廃止される可能性がある、ということが報じられた。</p> <p>VTR の中ではインターンシップの学生の「大学生活のスケジュールを自由に組めるというか就活に合わせて旅行とか留学とかの調整をしなくて住むのでそういう意味では通年はいいかな、と」、「企業とか学生がそれぞれのタイミングで、ちゃんと満足行く形で就活できなと思うので」、「ルールが定められているけれど結局守られていない、曖昧な状況にというか曖昧な状況に今すごいなっていると思うので、そういう意味ではだったらもう自由にしてもいいんじゃないかなって私的に思っていたので。」というコメントや、大学生の「戸惑うというか何からやればいいのかになって」、「ルールが変わるとやっぱりその対策のなかなかしづらいのようになって思うので。」</p> <p>「3 年生の先輩はなんかインターンとかで忙しそうなのでそれが一年にも回ってきたら大学生活がなんかそればかりになっちゃいそうだなと思います。」、「すごい早く、早く準備をしてなんかもう就職予備校みたいになっちゃって、これ以上早くなるとちょっとどうなのかな、とは思います。」「実際もうそうやって始まっちゃっているんだったらもうルール上明らかにしちゃったほうが、はい、どこの企業さんとかも選考とかに関しては便利に</p>		

なるんじゃないかな、とか。」といったコメントが取り上げられていた。

また、経団連非加盟企業の人事担当の「弊社にとってでいくと、ま、もしかしたらやり方を変えなければいけないかもしれないという懸念というか脅威はあります。」というコメントが取り上げられた。

このトピックについて当てられた時間は 365 秒で、放送法上の問題は特に見られなかった。

・医学部合格率と男女差：結論→特に問題なし

東京医科大学による不正入試問題を受けて文部科学省が行った調査、全国の共学の医学部医学科の内およそ 8 割の大学で男子の合格率が女子の合格率より高かった事がわかったとのこと、調査は今年度までの六年間について行われ男女の合格率の差が最も大きかったのは私立順天堂大学で 1.67 倍だったこと、特定の受験者に特別な加点を行った大学はなかったということではあるが文科省は追加で聞き取り調査などを行い来月最終的な調査結果などを公表する方針であるとのことが伝えられた。このトピックについて当てられた時間は 51 秒で放送法上の問題はなかった

・国民民主党代表選挙：結論→問題の可能性あり

国民民主党の代表選が行われ、現職の玉木共同代表が新しい代表に選ばれたこと、ナレーションによるナレ「現在、国民民主党の支持率は 0.5%。秋の臨時国会、そして来年の参議院選挙に向けてどのような対応を取るのか、玉木新代表には早速難題が待ち構えています。」という評価が伝えられ、玉木新代表の「今、全国を回っていると 2 つのことを言われます。一つは安倍さん何とかしてくれ。もう一つは、野党はまとまってくれ、私達は今、国民からのこの 2 つの問いかけに答えを出していかなければいけません。」という発言が取り上げられていた。

また、スタジオでは以下に朱記したやり取りが取り上げられていた。

雨宮塔子「国民民主党の支持率は 0.5% ということで多難ですねえ。」

星浩「そうですねえ、政党というのは時代に何を求められているか、つまりそのミッションは何かというのが大事なんですよね。国民民主党というのは希望の党のね、マイナスイメージをずっと背負っていますから独自で組織をこう強くしていくっていうのはそう簡単ではありませんよね、だとすると、野党の一つの塊を作ることに尽力をするというのが大事だと思うんですね。ですから、まあ玉木さんはやっぱり立憲民主党を含めてね、野党の中でどういうふうな塊を作っていくのかということにその力を阻止でもらいたいと思いますね。」

このトピックについて当てられた時間は 101 秒で、星キャスターの「国民民主党というのは希望の党のね、マイナスイメージをずっと背負っていますから」という発言について、希望の党がマイナスイメージを背負っていたということについてそれが事実であることは示されていなかった。この点について放送法第四条一項三号の「報道は事実をまげないですること」という点で問題である可能性がある。

・野田聖子総務相が安倍首相支持を表明：結論→他の放送日との併せての判断が必要

総裁選出馬を断念した野田聖子総務大臣の「安倍候補ですか、への支持というふうに固まりました、とそういう報告をさせていただきました。」という発言が取り上げられ、こうした判断に至った理由について安倍内閣の閣僚であることや自身の支援者や後援会などと相談した結果だとしているということが伝えられた。このトピックについて当てられた時間は 25 秒で、これについては他の総裁選関連の報道と併せての検証が必要であると考

える。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

・国民民主党代表選挙：問題あり

星キャスターの「国民民主党というのは希望の党のね、マイナスイメージをずっと背負っていますから」という発言があったが、そもそも希望の党は小池百合子東京都知事が立ち上げた新党であり、現在の国民民主党議員の多くは当時の前原誠司民進党代表が希望の党への合流を決定した際に、小池代表から排除されることなく希望の党へと合流した人々である。

現在の国民民主党の議員の多くは小池氏や小池新党としての希望の党とは全く異なる政治理念を持っているにもかかわらず、小池新党に共鳴する政治理念を持っているというイメージがついてしまったことを指して「マイナスイメージをずっと背負っている」というのであれば、あのときの「排除」や「政策協定」とは何だったのかという疑問は残るものの、国民民主党議員にとっての「マイナスイメージ」という話としてはわからなくもない。そういった意味では確かに、国民民主党の議員は小池新党のイメージを背負っているとは言えるが、それが直ちにマイナスイメージであるとは言えないだろう。

結局、希望の党のマイナスイメージとはどういうことなのか、ということは報道中では明らかにされず、単に「希望の党のマイナスイメージ」という言葉だけが先走ったコメントであった。これはまさしく事実とかけ離れて、希望の党にはマイナスイメージがあったのだという印象を視聴者に与える可能性があり印象操作とのそしりを免れ得ない軽率なコメントであったと言えるだろう。

検証者所感

・経団連と就職活動

インターンシップではない学生の声を拾う場面は背景の映像からどれも早稲田大学の学生にインタビューしていると思われるものだった。当事者である学生の声を拾うという点は評価できるものの、都内には複数の大学がある中で、早稲田大学の学生のみインタビューするという事は、拾われる学生の声についても相当程度の偏りが生じてしまうのではないだろうか。

また、経団連加盟企業の採用側の声についても、実際にはどういったところを人材獲得競争のライバルに想定し、そうした競合との競争において現行のルールはどうか、という声も聞きたかった。

・国民民主党代表選挙

星キャスターの「そうですね、政党というのは時代に何を求められているか、つまりそのミッションは何かというのが大事なんですよね。国民民主党というのは希望の党のね、マイナスイメージをずっと背負っていますから独自で組織をこう強くしていくっていうのはそう簡単ではありませんよね、だとすると、野党の一つの塊を作ることに尽力をするというのが大事だと思うんですね。ですから、まあ玉木さんはやっぱり立憲民主党を含めてね、野党の中でどういうふうな塊を作っていくのかということにその力を阻止でもらいたいと思いますね。」というコメントであるが、独自で組織を強くしていくというのが国民民主党にとって難しい道であり一朝

放送法遵守を求める視聴者の会



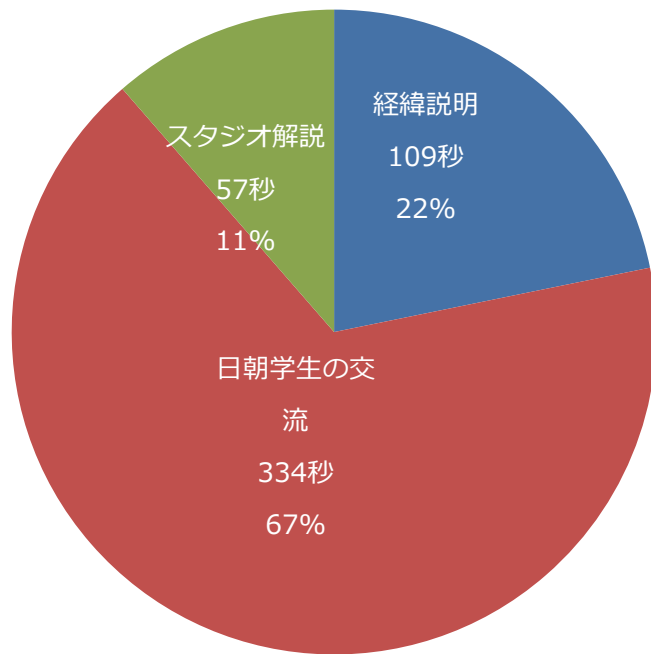
一夕にできることではないということは間違いないだろう。しかし、だからといって、立憲民主党を含めて野党の中で塊を作る、という選択肢も安直すぎやしないだろうか。そもそも国民民主党所属の議員の多くと立憲民主党所属の議員の多くを分けたのは、先の総選挙で希望の党の小池百合子代表（当時）の政策協定や「排除」への対応である。そこで旧民進党系の衆議院議員のうち、排除されなかった人たちが希望の党で出馬をし、排除された人やそうした姿勢に反発した人が枝野氏を中心に立憲民主党を立ち上げ、またこのどちらにも与しなかった人々が無所属として選挙を戦ったということは記憶に新しい。

希望の党が踏み絵として提示した政策協定には安保法制への対応も含まれており、この問題に対する賛否が異なるものどうして「一つの塊」を作るといえるのは極めて難しいだろう。また、そうした意味では小池新党が目指したのは安倍政権とは類似した外交安保政策を取りながらもそれ以外の政策領域で違いを出していく競合政党であり、外交安保という分野で安倍政権と鋭く対立する野党とは相容れない路線だったと言えるだろう。

一度は希望の党の旗のもとに集った政治家たちと、外交安保を踏み絵に排除された政治家とが野党の一つの塊としてやっていくためには、どちらかが外交安保政策の上では決定的な妥協をしなければならないが、それをしてしまった政党はかつての自社さ連立政権で首班選出政党になったことで自衛隊違憲論という長年の路線を放棄してしまい党勢が大きく衰退したかつての日本社会党の二の舞になってしまうのではないだろうか。

# NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局： TBS	番組名： NEWS23	放送： 2018年9月5日
出演者：【キャスター】皆川玲奈、駒田健吾、雨宮塔子、星浩、宇内梨沙		
検証テーマ：韓国特使団が訪朝、日朝学生交流、トランプ政権の新内幕本		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関西空港孤立</li> <li>・ 体操パワハラ問題</li> <li>・ 韓国特使団が訪朝</li> <li>・ 日朝学生交流</li> <li>・ トランプ政権の新内幕本</li> <li>・ 大阪容疑者逃走事件</li> <li>・ スポーツ報道</li> <li>・ 23Today</li> </ul> <p>                 関西空港閉鎖長期化の懸念                  体操パワハラ問題                  視覚障害の男性が駅の事故で死亡                  トヨタ自動車がリコール                  英、神経剤襲撃事件                  ・ 天気予報             </p>		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 韓国特使団が訪朝→結論：放送法第四条の見地から問題なし。                  今回は韓国特使団が訪朝し、平壤で金正恩党委員長と会談したことが伝えられた。その他に北朝鮮では朝鮮の建国記念式典に向けた準備が進められていることが伝えられ、今年のパフォーマンスの規模は大きなものになりそうだという予測が伝えられた。今トピックに当てられた報道時間は107秒。経緯説明が主な内容であった。                  放送法第四条の観点から問題は見られなかった。</li> <li>・ 日朝学生交流→結論：特に問題なし                  今回は日朝の学生交流の様子が伝えられ、日本の大学生である田尾紗衣さんと朝鮮の大学生であるハム・ジニさんの交流の様子が中心として伝えられる内容であった。今トピックに当てられた報道時間は500秒で、経緯説明、交流の様子、スタジオ解説に焦点が当てられる内容であった。報道の時間配分は以下の通り。</li> </ul>		



学生交流の様子に大きく比率が割かれているが、これは報道の内容上当然起こり得るものと考えられる。

学生交流の様子として報じられた内容は以下の通り。

ナレーター「二人の仲は急速に縮まりました。最初に訪れたのは金日成主席の生家。田尾さんのために日本語に訳してくれるハムさん。こうした交流の中、二人はお互いの本音を初めて語り合いました。」

田尾「やめときなって言われたし、家族も最初すごく反対していた。」

ナレーター「田尾さんは今回、初めて北朝鮮を訪れるのに際し、実は不安や怖さもあったとうち明けました。すると。」

ハム「もちろん私は日本語を専攻しているから（日本に）行きたいよ、ぜひ。でも、なんか怖いんですね。お互い様。」

ナレーター「このとき、田尾さんには本音を言い合えた安心感もありました。食事中、二人で夏休みの話をしたとき、田尾さんにとって驚くような話がありました。」

ハム「証明書があって（検問を）通過する場合はそれを見せてから。」

田尾「じゃあ水泳とか水泳場に行くときも許可もらってから行くの。」

ハム「水泳場というか海。」

田尾「ああ、海とか。」

ナレーター「平壤から外に出るときは事前に申請し、検問所で書類を見せるという現状。田尾さんが知ったはじめての事実でした。二日目の交流はおよそ4時間で終了。二人はずっと話し続けていました。そして、交流最終日。平壤郊外の山を二人一緒に登りました。その先では『日朝間の信頼関係をつくるためには何が必要か』というテーマで議論をしました。」

ハム「経済封鎖とか制裁策動が続いている中、交流はあり得るか。」

田尾「朝鮮に思っている感情が良くないのは、きっと本当に知らないから。みんなが暗い顔していて笑える環境がなくて、と思っていた。こうやってみんなが笑いあえるカジュアルな部分をもっと見ると良いのかな。」

ナレーター「交流最終日は朝から夕方までほぼ一日一緒に過ごして終了。田尾さんはハムさんへの色紙に朝鮮語で必ずまた会おうと綴りました。」

田尾「次いつ会えるのかが分からないのが、気付きたくなかったけど気付いちやった部分。実際にこっちに友達ができちゃうと、もしかしたらジモ（日朝関係の）仕事について仕事で会えるかもしれないから。ぜひ朝鮮半島と日本を結ぶ仕事につけたら良いなと思いました。」

ハム「紗衣さんと一緒に日本人に会ってお互い話し合っって仲良くして。日本への遠い感じがちょっと薄くなって近くなった。本当に別れは辛いと思います。でも、国交が正常化したら多分会えるし、希望を持って私の成長した姿を見せたいです。」

ナレーター「二人は離れていても一日違いのお互いの誕生日を祝い合う約束を胸に、再会できる日を待っています。」

今回は放送法第四条の見地から問題は見られなかった。

- ・トランプ政権の新内幕本→結論：特に問題なし

今回はトランプ政権の内幕について描かれた新たな本が出版されることが報じられた。本の著者がボブ・ウッドワーズ氏という記者で、ニクソン元大統領を辞任に追い込んだ記者として知られることから取り上げられた。今トピックに当てられた報道時間は 149 秒で、経緯説明が主な内容であった。

今回は放送法第四条の見地から問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨  
特になし。

#### 検証者所感

- ・日朝学生交流

日朝学生間の交流について報じられた中で、日本の大学生が「朝鮮に思っている感情が良くないのは、きっと本当に知らないから。みんなが暗い顔していて笑える環境がなくて、と思っていた。こうやってみんなが笑いあえるカジュアルな部分をもっと見ると良いのかな。」という発言があったが、日本国民が北朝鮮の生活を知ったと仮定しても対朝感情は変化しないものとする。これについてはスタジオ解説の中で星キャスターが「こういう交流を本格的に進めていくためには、北朝鮮に拉致問題とか非核化という問題について国際社会が受け入れられるような方策を打ち出してもらわないと、全体では前に進まないと思います。」と発言しているが、氏の発言としては珍しく的を射ていると考えられる。この発言は大いに評価したい。

# NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年9月6日
出演者：星浩、雨宮塔子、皆川玲菜、駒田健吾、宇内梨沙		
検証テーマ：北海道地震が総裁選にも影響、金党委員長が非核化の具体的期限に言及 秋篠宮家の長男悠仁さまが皇居御所を訪問		
報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道胆振東部地震</li> <li>・北海道地震が総裁選にも影響</li> <li>・関空国内線一部再開</li> <li>・金党委員長が非核化の具体的期限に言及</li> <li>・元モー娘。吉沢容疑者が飲酒ひき逃げ容疑で逮捕</li> <li>・スポーツ情報</li> <li>・23Today                     <ul style="list-style-type: none"> <li>北海道胆振東部地震</li> <li>関空国内線一部再開</li> <li>静岡看護師連れ去り事件で男二人が殺人容疑で逮捕</li> <li>茨城工場でタンク爆発</li> <li>秋篠宮家の長男悠仁さまが皇居御所を訪問</li> </ul> </li> <li>・天気予報</li> </ul>		
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道地震が総裁選にも影響→結論:放送法第四条の見地からは問題なし                      北海道胆振東部地震で各地の被害が伝えられる中で9月7日告示、20日投開票の総裁選について日程の大枠は変えない一方で明日から三日間記者会見や討論会などを自粛することを決めたことについて報じられた。このトピックスは18秒報じられ特に問題点は見当たらなかった。</li> <li>・金党委員長が非核化の具体的期限に言及→結論:放送法第四条の見地からは問題なし                      今年3回目となる南北首脳会談が今月18日から開かれることが決まり、北朝鮮の金正恩党委員長が非核化の具体的な期限に初めて言及したことが報じられた。金党委員長はトランプ大統領に対する信頼は変わらないとした上で、トランプ氏の1期目の任期が終わる2021年1月までに米朝関係を改善し非核化を実現したいとの考えを表明したと伝えられていた。これを受けてコメンテーターの星浩氏は「完全非核化とそう簡単じゃないんですよ。トランプさんの任期中に非核化したいっていうことで、まあトランプさんからの評価を得たいということなんでしょうね。おそらくこの南北首脳会談を受けて北朝鮮からするとさらにもう一回米朝首脳会談をやって、そこで今非核化をちらつかして制裁の解除を勝ち取りたいという狙いですから、そういう点でそのトランプさんがどう反応するかっていうのは注目される点ですね。」とコメントしていた。なおこのトピックスは119秒で賛否が分かれる点は見当たらなかった。</li> </ul>		

## NEWS23 週刊報告 詳細版

・秋篠宮家の長男悠仁さまが皇居御所を訪問→結論:放送法第四条の見地からは問題なし

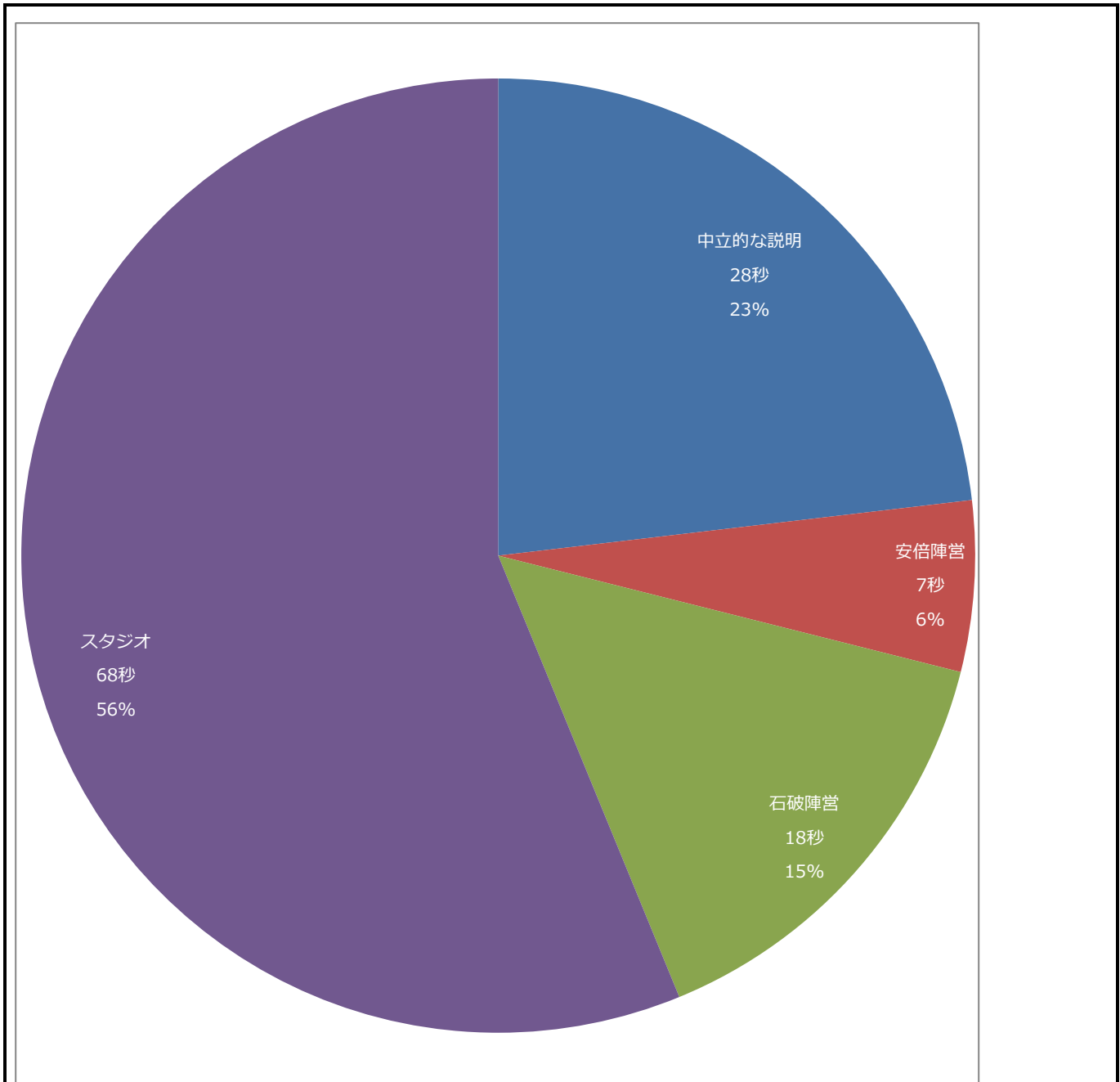
12歳の誕生日を迎えた秋篠宮家の長男悠仁さまが皇居御所を訪れ天皇皇后両陛下に挨拶されたことについての報道。悠仁さまの進学先についてご家族で相談を重ねられているということも併せて報じられた。同報道の時間は19秒で特に問題点は見当たらなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨  
特になし

検証者所感  
特になし

# NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年9月7日
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙		
検証テーマ：北朝鮮建国 70 年、自民党総裁選		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道震度 7 からの復旧</li> <li>・大坂なおみ決勝進出</li> <li>・スルガ銀行、不正融資に組織ぐるみの実態</li> <li>・北朝鮮建国 70 年</li> <li>・大阪、逃走男の胸の内</li> <li>・自民党総裁選</li> <li>・【速報】 ハワイアン機が羽田に緊急着陸</li> <li>・スポーツ報道</li> <li>・23Today</li> </ul> <p>北海道震度 7 の影響今も 大坂なおみ決勝進出 九大で爆発音で一人死亡、自殺の可能性も 元モー娘。吉澤容疑者から基準値 4 倍のアルコール検出 台風で閉鎖の関西空港で国内線の一部運行が再開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天気予報</li> </ul>		
<p>放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北朝鮮建国 70 年：結論→特に問題なし</li> </ul> <p>明後日 9 日に建国 70 週年の記念日を迎える北朝鮮について、報じられた。祝賀行事には 20 カ国以上から報道陣が招かれているものの自由に街に出て取材をすることは残念ながら許されていないとことが伝えられ、その上で VTR では北朝鮮の科学技術振興の様子や、経済産業が発展している様子が伝えられた。</p> <p>このトピックについて当てられた時間は 311 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自民党総裁選：結論→他の放送日と併せての判断が必要</li> </ul> <p>自民党の総裁選について報じられた。このトピックについては中立的な説明が行われた場面、安倍陣営の動きや主張について焦点が当てられた場面、石破陣営の動きや主張について焦点が当てられた場面、スタジオでのやり取りという 4 つの場面から構成されていた。このトピックについて当てられた時間は 121 秒で、それぞれの場面についての時間配分及び比率は以下の通りであった。</p>		



中立的な説明が行われた場面では、7日告示された自民党総裁選について安倍総理と石破元幹事長の二人が立候補を届け出たこと、一方で、北海道での地震に配慮し3日感は選挙活動を自粛することから静かなスタートとなったとのこと、演説会と共同記者会見は週明け月曜日に行われる予定であることが伝えられた。

安倍陣営については記者の「総理、総裁選が告示日を迎えました、どう望むお考えでしょうか。」という問いかけに対して安倍総理が「おはようございます。」と返すシーンが取り上げられていた。

石破陣営については石破氏が「この国をどうしていくのか、その道筋、安倍総裁と私と議論を交わし、国民に皆様方に選択肢を提示をし、選んでいただける、そういうような総裁選であってほしいな、と。」と発言するシーンが取り上げられていた。



スタジオでは以下に朱記したやり取りが取り上げられていた。

雨宮塔子「安倍さん石破さんとも今日、推薦人名簿を提出しましたが、星さん、それぞれのどんな推薦人になるかで見えるところってあるんですか。」

星浩「そうですね、20人の議員が必要なんですけどその中身を見ると戦略が見えてくるんですよ。例えば安倍さんの方はですね入閣待望組が、まああえて名前は言いませんが数人入ってましてね、我が陣営はその入閣したい人を公募していますよ、というアピールですよ。それから佐藤正久さんっていう方がいるんですが、彼はその参議院竹下派なんですよ、参議院竹下派は基本的には石破さん支持なんですけれどもその中でもそれに反して安倍さんの陣営についていますよ、と。参議院竹下派も石破さん一色ではありませんよというアピールですね、はい。一方、石破さんの方はですね、参議院のドンと言われたその青木幹雄さんの息子さんの青木一彦さんを添えて、青木さんはその参議院全体に影響力がありますのでね、そのへんにちょっと目を配っているかな、という感じ。それから石破さんのグループだけじゃなくて他のグループ、中谷さんも入ってますよ、と。意外とまあ色々な、色々なグループから支持がありますよというのをアピールしたい、それぞれその陣営の狙いというところから見えてくるということですね。」

このトピックについての放送法上からの評価は他の放送日と併せて判断する必要があると考える。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・自民党総裁選

確かに星キャスターの述べるように、誰が推薦人としてついているのか、という点から見えることは多々あるというのはもっともである。ただ、推薦人というのは陣営が選ぶのではなく、あくまでも総裁候補を推薦したい議員がいて、総裁候補がそうした人を推薦人に求めて初めて成り立つ関係であり、総裁候補が一方的に指名することはできない。それができないからこそ、推薦人が集まらずに出馬断念という事が起こりうるのである。その上で、それぞれの陣営が推薦人になってくれそうな議員の中から推薦人を求めるのだから、確かに誰を推薦人にするかで陣営の戦略が見えてくるが、同時に誰が誰の推薦人になるかで推薦人の意向というのも見えてくる。

そういった意味では、入閣待望組が安倍候補の推薦人になるというのは、安倍陣営からすると広く入閣候補者を募るというアピールであるし、逆に入閣待望組の推薦人には総裁選での論功行賞を期待するという狙いがあることも見えてくる。ところが、星キャスターがスタジオでこうした入閣待望組の推薦人については氏名も所属派閥も伏せていたことについては、視聴者に対して陣営の戦略を見せるという点では推薦人の氏名や所属派閥をあえて伏せることの積極的な理由は見いだせないだろう。星キャスターはなんの意図があって入閣待望組の推薦人について氏名や所属派閥を伏せたのだろうか。

あるいは、星キャスターは番組中では言及していなかったが、安倍陣営の推薦人となった佐藤正久参院議員は2012年の総裁選では石破氏の推薦人になっていた。そうした議員が今回今回安倍氏の推薦人になっている、というケースからはこの間に、そういった議員には石破氏支持から安倍氏支持に変わったのだという印象を伴うだ

ろうし、そうなるだけのなんらかの心境の変化があったのでは、とも見えるだろう。

また、中谷元議員についても、石破氏陣営の戦略という点では石破派・竹下派以外にも案外支持が広がっていることのアピールになるが、日頃は村上誠一郎衆院議員が目立つためあまりクローズアップされることはないが中谷氏も自民党内では反安倍と目される議員であり、そうしたことが石破氏の推薦人になるという意思決定の背景にあったのでは、という見方も成り立ちうる。

このように、誰を推薦人に求めるのかという候補の戦略もさることながら、誰の推薦人になるのか、という点からは推薦人となった議員の戦略も同時に見えてくるだろう。しかし、上述したように、推薦人についての情報は、石破氏の推薦人のほうが候補に有利に働く情報を伝えており、安倍氏の推薦人については安倍氏に有利に働くあるいは石破氏に不利に働く情報はかなり伏せられていたと言えるものだった。

それはそうと、青木幹雄元参院議員と青木一彦参院議員の父子が石破氏の関係について、青木一彦氏が前回の参院選挙で島根鳥取合区の関係で石破氏から支援を受けていた、という点には全く触れられていないが、これはどういうことなのだろうか、見ていて違和感を覚える。